

令和5（2023）年度 事業報告書

★ 大阪工業技術専門学校

1. 学科別出願者、入学者数の状況 （令和6（2024）年5月1日現在）

学科名 \ 区 分	入学定員	出願者	入学者
I 部建築学科	120 名	46 名(85)	43 名(81)
建築設計学科	30 名	25 名(26)	22 名(25)
インテリアデザイン学科	40 名	24 名(38)	23 名(36)
大工技能学科	40 名	27 名(27)	26 名(27)
ロボット・機械学科	40 名	20 名(26)	15 名(24)
建築士専科	50 名	35 名(19)	32 名(15)
II 部建築学科	50 名	56 名(48)	53 名(46)
合 計	370 名	233 名(269)	214 名(254)

（ ）は昨年度数

2. 就職の状況

① I 部 卒業生 （令和6（2024）年3月31日現在）

学科名	令和3（2021）年度				令和4（2022）年度				令和5（2023）年度			
	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率
I 部建築学科	113	97	88	90.7	79	71	64	90.1	85	67	61	91.0
建築設計学科	24	20	16	80.0	25	23	20	87.0	33	30	29	96.7
大工技能学科	28	26	25	96.2	32	31	30	96.8	37	36	36	100
インテリアデザイン学科	39	24	19	79.2	26	21	19	90.5	30	21	16	76.2
ロボット・機械学科	40	39	32	82.1	35	33	30	90.9	28	27	26	96.3
建築士専科	30	29	28	96.6	33	33	31	93.9	13	13	13	100
合 計	275	236	209	88.6	230	212	194	91.5	226	194	181	93.3

※内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

3. 教育行事

1) 企業研修 夏季全学科合計：R5：94 名（R4：119 名、R3：100 名）

春季全学科合計：R5：82 名（R4：60 名、R3：55 名）

※ 夏季または春季休暇期間中の1～2週間で実施した。

2) 保護者会の実施

➤夜間部学科を除く1年生対象の保護者会を1月に対面で実施した。

3) 各競技会への参加

➤建築系学科「大阪府あすなろ夢建築」コンペに参加した。

➤大工技能学科「第39回全国削ろう会・糸魚川大会学生の部」に参加し、2・3・4位入賞を果たした。

➤ロボット・機械学科「キャチロボバトルコンテスト」等に参加した。

4. 教育改革等

令和5(2023)年5月に新型コロナウイルスの5類移行を受けて、昼間部学科の1年生は全ての授業を対面形式で実施した。昨年度にはすべての普通教室に電子黒板が導入されたため、オンラインで開発された電子教材を対面授業でも効果的に利用でき、講義だけでなく実習科目でも効率的かつ密度の高い授業が可能となった。また、対面授業に戻ることで学生の変化を早く察知できるなど、より効果的なサポートでき、クラス的环境整備にも良い影響が生じた。

昼間部学科2年生の講義科目については引き続きオンライン形式を採用し、授業の運営を効率化し、受講場所を選ばない学びなど、新しい授業形態の探求や研究に活用した。

夜間部学科では新しい試みとして、講義科目について学生がオンラインまたは登校での受講を自由選択できるようにした。多くの社会人学生にとって、学びの選択肢が広がり、満足度が向上したと推察する。また、広報活動と連携して、工業系高校出身者向けの特別講座「建築士対策講座」を実施し、その結果、2名の学生が学科試験合格を果たした。

一方で、学力が低い学生が多く入学してくる中、基礎学力テストを実施し、基礎学力養成講座への参加を促し、これにより中途退学の抑制に役立ったと考えている。

キャリアデザイン授業の一環として行っている「進路基礎講座」によって、社会人のマナーやSPI対策、学生の進路意識向上や積極的な進路活動を促進した。また、「企業研修」は企業側が採用活動の一環として重視する傾向があり、学生の職業意識の強化や適性確認などにも効果的であるため、企業研修への継続的な指導を行った。

(1) 資格取得強化事業

新入生全員(リカレント学生の一部を除く)に対して実施している『ビジネス能力検定3級・2級』と学科の授業科目に対応した『福祉住環境コーディネーター3級』、『建築大工技能士3級・2級』、『第2種電気工事士(学科&技能)』、及び建築士専科が100%合格を目標としている『2級建築士試験(国家資格)』の合格率は下記の通りである。

建築設計学科、及びⅡ部建築学科を除く全学科(1年生)

(令和5.12.3実施)

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定3級	76名	62名	81.6%	73.8%
ビジネス能力検定2級	6名	6名	100%	66.7%

I 部建築学科 A・B・C クラス、建築設計学科（1 年生）

（令和 5.7.14～8.3 実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
福祉住環境コーディネーター 3 級	57 名	18 名	31.6%	45.5%

大工技能学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
建築大工技能士（3 級）	27 名	26 名	96.3%	67～87%
建築大工技能士（2 級）	32 名	12 名	37.5%	37～41%

※全国平均の詳細は公表されず、級別のおおよその数値

ロボット・機械学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
第 2 種電気工事士（学科）下期	9 名	5 名	55.6%	58.9%
第 2 種電気工事士（技能）下期	5 名	3 名	60.0%	68.8%

建築士専科

2 級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験（1 次）	14 名	10 名	4 名	71.4%	35.0%
製図試験（2 次）	9 名	6 名	3 名	66.7%	49.9%
総 合	13 名	6 名	7 名	57.6%	22.3%

※当初の受験者 14 名のうち、1 名は学科試験（1 次）合格後に退学

☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

・講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2 級建築士合格講座（製図）	2 か月	63 時間	13 名
第 2 種電気工事士講座（筆記&技能）	4 か月	65 時間	未開講
合 計			13 名

*積水ハウス 設計マインド研修

1 年次初級版として、10/28、29 に入社 1 年目社員 154 名に研修（講習）を実施した。

4 年次中級版として、8/24、25、9/4、5、7、8、11、12 に入社 4 年目社員 104 名に対する研修（講習）を実施した。初級版を完全オンライン形式、中級版は対面方式として開催した。

☆ 校友会の活動状況

1. 広報渉外活動

- (1) 第86期 総務会（令和5（2023）年10月29日）を「びわ湖大津館」にて開催した。
- (2) 支部活動として以下の行事を開催した。
 - ① IIKen：新社会人・新入生歓迎BBQ大会
 - ② 大阪支部：Walk in 北浜として、北浜・淀屋橋エリアの近代建築(重要文化財)を見学
 - ③ 兵庫支部：竹中大工道具館の見学&布引ハーブ園を散策
 - ④ 奈良・三重・中部支部：伊勢神宮参拝のバスツアー
 - ⑤ 京滋支部及び中部支部の総会、並びに各支部の役員会
- (3) 日本国際ドラゴンボート選手権大会に2チームが出場した。※（福田学園 校友会と共催）
- (4) 校友会ネットワーク推薦制度として、2名の入学者を推薦した。
- (5) ビジネスサロンとして、茶道体験レッスンその6を開催した。
※（大工技能学科の卒研発表会と同時開催）

2. 福利厚生活動

- (1) 卒業アルバム(WEB版)を制作して、ホームページに掲載及び卒業記念品の贈呈を行なった。
- (2) 卒業設計の審査を行い、卒業式に於いて校友会奨励賞「3組」に金一封を贈呈した。
- (3) 在校生の各種大会「ロボット研究部（4件）・大工技能学科（1件）」に助成した。
- (4) 校友会祝意表彰と金一封を贈呈した。
 - ① 大阪府知事賞「第66回大阪建築コンクール（教員）」
 - ② 大阪府職業能力開発協会会長賞「技能検定成績優秀者（大工技能学科）」
- (5) 学生自治会の協賛として「発汗会」及び「卒業セレモニー」を開催した。
- (6) 国家資格合格者の報奨金を「第85期（24名）」に贈呈した。
- (7) 入学お祝いのお食事券を発行、及び建築士試験のための製図版の貸出を行った。

3. 特別委員会の活動

- (1) 国際交流部として、留学生歓迎会を「大阪くらしの今昔館見学と懇親会」を開催した。
- (2) OCT女子会として、懇親会を「スモークローキッチン中之島」にて開催した。

4. 能登半島地震の被災者（在校生）に対する義援金を寄贈

★ 大阪リハビリテーション専門学校

1. 入学試験の状況

学科名 \ 区分	入学定員	志願者	合格者	入学者
II部理学療法学科（3年制）	40名	38名 (40)	35名 (38)	32名 (35)
II部作業療法学科（3年制）	40名	23名 (32)	22名 (28)	22名 (26)

() は昨年度数

令和5（2023）年度入学試験より、社会人AO入試を開始した。
各入試方式別の志願者数、入学者数は以下のとおりである。

学科名 \ 区分	AO（高校生）	高校推薦	一般	社会人AO
理学療法学科 入学者数（志願者）	1名（1名*）	2名（2名）	8名（10名）	21名（25名）
作業療法学科 入学者数（志願者）	1名（1名*）	0名（0名）	4名（4名）	17名（17名）

（ ）は志願者数

2. 国家試験の合格者数の状況

担任を中心とした専任教員による国家試験対策授業に加え、本校が加盟している全国リハビリテーション教育協会主催による Zoom での国家試験対策特別講義の受講や複数回の模擬試験の実施と分析、外部講師による直前対策セミナー、卒業生による学習支援などを行った。模擬試験結果を踏まえ、成績低迷者に対しては個別による補講や午前・午後・夜間帯の三部構成での学習サポートを行った。

また、国家試験本番に向け精神的な不安を抱えた学生には、メンタルケアや内発的動機づけを意識した個別面談を実施するなど、学生に合わせたきめ細やかな指導を行い、両学科とも高い合格実績を得ることができた。

(1) OCR の合格状況（※新卒者のみ）

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	31名	31名	100.0%
作業療法士	25名	24名	96.0%

(2) 全国の合格状況（※新卒者のみ）

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	11,408名	10,858名	95.2%
作業療法士	5,019名	4,583名	91.3%

3. 就職の状況

令和5（2023）年度の求人数については、理学療法士3,139件、作業療法士2,695件であった。求人数は前年度比で増加している。両学科ともに専任教員が履歴書の記入方法を含め、個別にきめ細やかな就職支援を行った結果、下記の通りの結果となった。

	卒業者数	国家試験合格者数	就職者数		進学者数	就職活動中
			資格に係る業	その他		
理学療法学科	33名	31名	30名	2名	0名	1名
作業療法学科	25名	24名	21名	1名	0名	3名

※国家試験受験後の就職先未定者は、卒業後、現在も就職活動を継続しており、教員も引き続き指導を行っている。

4. 教育指導

- ・職業実践専門課程の認可条件でもあるが、両学科共に学校関係者評価委員会（1回/年）を8月に、教育課程編成委員会（2回/年）を11月と2月に開催した。学校関係者評価では、自己点検評価報告書に基づき外部委員による第三者評価を受けたが、基準1～9の全ての項目で3点満点中、2.5点以上であり平均としても2.7点という高評価を得られた。教育課程編成委員会ではカリキュラムや学習指導・学生生活におけるフォローの実施状況、臨床実習での取り組み等を報告し、各委員より多様な視点から現場や業界の実情にそったご意見やご指摘等をいただいた。これらの内容に基づき、教育内容や実習前後の学生指導等について、改善・検討を行ない、引き続き教育課程の編成や学校運営等に活かしていきたい。
- ・大きな課題としている退学者数の抑制については、以下の対策を令和4（2022）年度に引き続き行なった。
 - 過去の退学者の状況から、退学者や休学者が1年次に特に多い傾向分析に基づき全学生を対象に1回、入学後の学習や学校生活を円滑に開始し学生生活に馴染むことができるよう、入学前に新卒の高校生を対象に4回（※令和5（2023）年度より希望者は高校新卒以外も参加可能とした）、入学前オリエンテーションを実施した。
 - 1年生を対象に教育アシスタント制度を導入し、理学療法学科は平日に週2回、作業療法学科は土曜日に週1回、各学科卒業生2名によるサポートで生理学や解剖学などの補講を行った。補講の目的は、生理学などの基礎科目を中心とした基礎学力の定着を狙い企画したものであるが、講師には、上記に加え、勉強方法や授業への取り組み方といったことも交えて指導をしてもらった。当補講については、自発的な申込みだけでなく、成績不良者に関しては専任教員より参加を促した。本来、積極的に参加して欲しい成績低迷者の一部についてはアルバイト等を理由に参加に至らなかった学生もいたが、参加した学生の中には一定の効果が得られた者もあり、令和6（2024）年度も当制度を継続し、昨年までの内容をさらに充実させ、引き続き退学者数の抑制を目指していく。
- ・臨床実習では、実習途中でのリタイアを無くすため、専任教員が定期的の実習先を訪問し、臨床実習指導者と連携しての学生指導を実施している。全員一律での対応ではなく、問題となる学生を予測し、回数を増やすなど、学生に合わせたサポートを行っている。
- ・仕事や家庭との両立を支援する取り組みとして、ITワーキングや教学委員会を中心に遠隔授業の方法やルールを検討し、令和6（2024）年度から理学療法学科は土曜日、作業療法学科は金曜日にオンライン授業を組み入れるなど本格的に遠隔授業を導入することとなった。今後も、教育効果が対面授業と同等以上と学校が認めた授業については、遠隔授業を積極的に取り入れていく。

5. 学習環境（施設）の整備について

- ・教育環境の整備と学習・研究支援機能強化を目的に共有スペースにおけるアクセスネットワークとして無線ネットワーク環境を構築・整備し、2号館のWi-Fi環境について強化リニューアル工事を行った。また、全学生の個人ロッカーを全て新しいものに入れ替えた。

・経費節減について、教職員から提案を募り、検討を開始した。短期的に取り組めること、中期的に検討すること等を精査の上、運営会議・各該当部署等にて、取り組みを実施していく。

令和 6 (2024) 年能登半島地震に対する復興に向け尽力されている被災校への一助となるよう、全国リハビリテーション学校協会を通じ、復興義援金募集に応じて PT 学科、OT 学科よりお見舞金を納めた。

★ 大阪保健医療大学

1. 入学試験の状況

保健医療学部の志願者は昨年比 102%、入学定員充足率は 106%であった。専攻別では、理学療法学専攻の志願者が昨年比 85.7%と減少しているが、入学者充足率 113%であった。作業療法学専攻は志願者が昨年比 175%と大幅に増加しているが、入学者充足率 90%であった。18 歳人口が減少する中、志願者数の確保とともに、志願者を入学へつなげる部分に課題が残る結果となった。

言語聴覚専攻科は昨年と同数の志願者であり、入学者充足率 42.5%と低い状況が継続しており、社会人を対象とした募集がさらに厳しい状況となっている。

保健医療学研究科は昨年よりも志願者がわずかに増加したが、入学者充足率 33.3%と低い状況が継続している。魅力ある大学院の学びを実現するためにも、定員充足に課題が残る結果となった。

(名)

区分 専攻名	入学 定員	志願者										入学者
		総合型 選抜	指定校 推薦	一般 (共通アス ト併用)	チ ャ レ ン ジ	社 会 人	一般 (ST)	AO (ST)	資格 (ST)	研究科	合 計	
理学 療法学 専攻	70	111 (136)	17 (18)	36 (50)	46 (42)	1 (0)	—	—	—	—	211 (246)	79 (81)
作業 療法学 専攻	30	26 (22)	10 (5)	24 (17)	37 (12)	1 (0)	—	—	—	—	98 (56)	27 (23)
言語 聴覚 専攻科	40	—	—	—	—	—	6 (29)	8 (-)	5 (-)	—	29 (29)	17 (27)
保健 医療学 研究科	6	—	—	—	—	—	—	—	—	2 (1)	2 (1)	2 (1)
合 計	146	137 (158)	27 (23)	60 (67)	83 (54)	2 (0)	6 (29)	8 (-)	5 (-)	2 (1)	330 (332)	125 (132)

(第2志望含む) () は昨年度数

*令和 6 (2024) 年度選抜より言語聴覚専攻科で新たに AO 入試及び資格・免許活用型入試を実施

2. 国家試験の合格者数の状況

保健医療学部では専任教員による国家試験対策講義、卒業生による対策講座やグループ指導、学内模擬試験、外部講師による対策セミナー、各専任教員による個別指導に加え、成績低迷者に対する集中

的な補講を実施するなど、両専攻共に組織的な取り組みと各教員におけるきめ細やかな対応を実施した。結果、理学療法士専攻は受験者全員合格（合格率 100%）となり、全国平均合格率（全体 89.2%、新卒者のみ 95.2%）を大きく上回ることができた。一方、作業療法士専攻は 3 名が不合格（合格率 91.2%）となり、全国平均合格率（全体 84.1%、新卒者のみ 91.3%）とほぼ同様の結果であった。近年、新卒者の合格率が令和 3（2021）年度卒 77.2%、令和 4（2022）年卒 84.4%と低迷していたが、令和 5（2023）年度卒者は全国平均まで向上させることができた事は、国家試験合格率 100%協議会ならびに専攻教員の手厚いサポートの成果と考える。両専攻でこの結果を分析の上、より有効な指導方法、国試対策の在り方を共有し、令和 6（2024）年度は共に全国平均を上回るだけでなく受験生全員が合格を達成できるよう、より効果的な指導・支援の在り方と更なる組織的な体制構築を目指す。言語聴覚専攻科においては、外部講師によるグループ指導の取り組み等、これまで積み上げてきた確かな指導体制に基づき実施し、昨年度は不合格であった既卒者の 1 名も含めて今年度は全員が合格（合格率 100%）し、全国平均合格率（72.4%）を大きく上回った。

(1) OHSU の合格状況（※PT・OT 新卒者のみ、ST 既卒者含）

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	69 名	69 名	100%
作業療法士	34 名	31 名	91.2%
言語聴覚士	23 名	23 名	100%

(2) 全国の合格状況（※PT・OT 新卒者のみ、ST 既卒者含）

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	11,408 名	10,858 名	95.2%
作業療法士	5,019 名	4,583 名	91.3%
言語聴覚士	2,431 名	1,761 名	72.4%

3. 就職の状況

求人数は理学療法士 3,368 件、作業療法士 3,002 件、言語聴覚士 1,637 件であり、継続的に十分な求人数が確保できている。また、各専攻・専攻科ともに、キャリア・サポート委員会を中心に就職セミナーや面接指導を実施し、特に面接指導では、課題のある学生について個別での補講セミナーも行った。さらに専任教員が求人票に基づき個別に学生指導を行うと共に、専任教員が臨床現場にて、現在の病院・施設での就職活動状況などの情報収集を行い、就職支援を行った結果、下記の通りの成果を得た。

	卒業者数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法士専攻	69 名	69 名	68 名	1 名
作業療法士専攻	34 名	31 名	30 名	0 名
言語聴覚専攻科	22 名	22 名	21 名	0 名

4. 教育指導

新型コロナウイルス感染症の扱いが季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」へ移行したことに伴い、令和 5（2023）年 5 月 8 日以降、授業等の実施体制の変更（登学停止基準の変更、登学停止時の特例

措置の廃止)を行った。令和 5 (2023) 年度についても教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができる」と教学委員会が認めた科目については、遠隔授業を(主にオンデマンド型)実施した。また、新入生については遠隔講義の受講・操作方法のみだけでなく、スケジュール管理などもあわせてサポートし、スムーズに講義に入れるようにフォローを行った。

保健医療学部・言語聴覚専攻科では、学修成果の可視化として、本学が目指す学修成果の最終到達点(最終的な学生の学びの内容と水準)であるディプロマ・ポリシーを達成するための具体的、段階的内容を可視化した【卒業・修了要件達成表】を全学生に配布し、保健医療学研究科においても、ディプロマ・ポリシーの達成度の客観的な評価を行うため、修了生本人および上長に対するアンケート調査を実施した。

保健医療学部では、財団法人日本高等教育評価機構の認証評価において高い評価を得た 2 学期クォーター制及びフォロー制度を令和 5 (2023) 年度も継続して実施した。また、「単位認定に関する内規」の取り扱いについて、これまでも履修指導の複雑化や学生負担(精神的・経済的)等が課題となっていたが、財団法人日本高等教育評価機構により、原級留置者の全専門科目・専門基礎科目について再履修させる同制度の周知方法等について参考意見が付いたことも踏まえ、現状の諸課題改善のため、進級制度及び再履修制度の見直しを行った。結果として、令和 6 (2024) 年度原級留置となった学生の内、新たな再履修制度(同一科目再履修)の対象者は、8名であった。

現在設置している学習支援塾は、成績低迷学生の学修支援を担う場の一つとして機能し、認知度も高まっており、継続フォロー対象学生に対する学習支援塾の利用必須化をはかり、科目担当者と連携する中で必要な学生に支援の手を届けることができるようになってきている。当該取り組みに関しては、継続して実施するとともに、より効果的な実施方法や支援体制について検討を継続する。また、新たに学部生同士の SA (Student Assistant) 制度及び保健医療学部・研究科の卒業生や研究科在学学生を TA (Teaching Assistant) もしくは SS (Support Staff) として本学の教育活動に協力頂けるよう制度の検討を行い、令和 6 (2024) 年度より導入することとなった。今後もより効果的な実施方法や支援体制について更なる質向上を図りながら継続して実施していく。

タブレット端末の積極的利用に関しては、GIGA スクール学生が入学する令和 7 (2025) 年度に向けて計画的な準備を進めていたが、当初の計画より 1 年早い令和 6 (2024) 年度より CYOD 方式(学校がある程度、端末の仕様や機種を複数指定して、利用者が選択し、購入を斡旋)で、新入生全員に対して端末を用意してもらう計画となった。そのため、ICT に関する知識や操作スキルの向上を図るべく、令和 5 (2023) 年度に ICT 教育に関する教職員 SD・FD 研修を行った。引き続き ICT を活用した効果的な教育の提供に向けて段階的に取り組んでいく。

言語聴覚専攻科については、通常授業時の細やかな学生指導に加え、国家試験対策として学習低迷者の個々の特徴を捉え、教員がきめ細やかに指導方針を共有しあいながらグループ指導や個別指導を行った。外部講師によるグループ指導の取り組み等、これまで積み上げてきた確かな指導体制に基づき実施し、昨年度は 1 名が不合格となった結果を、今年度は全員合格(合格率 100%)の実績を取り戻し、全国平均合格率を大きく上回った。今後も質の高い教育、学修支援を継続して実施していく。

保健医療学研究科では、令和 4 (2022) 年度に入学した学生が 3 名とも令和 5 (2023) 年度に修了す

ることが出来た。生活機能を支援する最新の知識や、科学的根拠に基づいた介入が実践できる技能を修得できるよう、今後もより効果的な教育を行っていく。

5. 施設・設備

令和4（2022）年度及び令和5（2023）年度に実施した学生生活アンケート結果及び学生満足度アゲ隊（学生及び教職員代表者で構成）からの意見をふまえて、以下の改修を行った。

- ・1号館 無線ネットワーク（Wi-Fi）更新
- ・2号館 無線ネットワーク（Wi-Fi）更新及び学生ロッカーの入れ替え

また、ICT教育推進の一環で、福田学園校友会より電子黒板4台を寄贈いただいた。さらには、ラーニングコモンズ（2号館ラウンジ・1号館情報処理室）の設置に向けて、学生満足度アゲ隊とディスカッションを重ねた改修案を全学生及び教職員から投票してもらい、改修案を決定した。

6. 自己点検・評価

令和5（2023）年度においても、「大阪保健医療大学内部質保証方針及び実施体制」及び「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、教育研究運営に至る全学的な自己点検評価報告書を作成し、各基準項目の「改善・向上方策」の継続課題について、担当委員会・部署にて内容を精査し実行に移していくことでPDCAサイクルに則り、諸活動を実施した。また、内部質保証システムに則り、成果や改善向上方策を自己点検して、事業報告、事業計画、中期展望及び期間中の取り組み（5ヵ年計画）に反映させるとともに、「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、得られた課題・改善方策『令和5（2023）年度アセスメント実行レポート』を作成し、全教職員に情報共有を行った。

☆ 福田学園校友会の活動状況

1. 理事会及び部会の開催

①理事会

理事会は6回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。本年はWebと対面を併用したハイブリッドの理事会となった。

②部会研修会

新型コロナウイルスの影響を考慮して、Web併用の研修会を1回実施した。

PT研修会2回（4月、7月）、OT研修会2回（9月、11月）、ST研修会1回（12月）、大学院研修会2回（10月、12月）

2. 福田学園校友会総会について

総会は対面開催で行い、予算案を承認いただいた。

3. 在校生・学校支援について

- ・2号館4・5・6階に電子黒板4台とケーブル（約200万円）を寄贈した。
- ・カンボジアスタディツアーへは、寄附（25万円）を行った。
- ・学校行事（卒業式・入学式）には、会長が出席し祝意を表した。

- ・卒業式では、校友会賞として賞状・副賞を各専攻の1人を表彰した。
- ・ドラゴンボート大会では、OCT校友会に協賛という形で参加した。
- ・図書（約100冊：20万円分）を寄贈した。
- ・学園祭に校友会ブースを出展協力（フルーツ飴）した。
- ・Therapist be ambitious（校友会会員・準会員の交流及び支援活動）を定期開催した。
- ・能登半島地震 義援金（PT、OT、ST）を送った。

★ 福田学園

1. 理事、監事、評議員について

理事	選出母体	
1号	設置する学校の長（1名）	福田 益和
2号	評議員会（2名）	宮崎 安弘 佐藤 誠
3号	学識経験者（4名）	山本 一仁 水島 洋 渡邊眞一郎 福田 眞
監事		村岡 かほる 菊田 薫

評議員	選出母体	
1号	学園職員（6～8名）	福田 益和
		佐藤 誠
		伊東 和幸
		石倉 隆
		島 雅人
		越智 久雄
2号	卒業生（3～4名）	宗林 功
		宮本 光二
		村野 智子
3号	学識経験者（6～8名）	井口 知也
		宮崎 安弘
		山本 一仁
		水島 洋
		福田 眞
		福田 祐子
		岡山 保美
高橋 弘樹		

2. 教職員の状況

		2024年5月1日現在	2023年5月1日現在	増 減
OCT教員	専任教員	17	17	0
	非常勤講師	81	83	-2
	(小計)	98	100	-2
OCR教員	専任教員	14	15	-1
	非常勤講師	118	113	+5
	(小計)	132	128	+4
OHSU教員	専任教員	33	34	-1
	非常勤講師	199	200	-1
	(小計)	232	234	-2
事務局	専任事務職員	35	32	+3
	業務委託派遣事務職員	0	2	-2
	(小計)	35	34	+1
合計	専任教職員	99	98	+1
	講師・派遣	398	398	0
	(合計)	497	496	+1

3. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化、及びネット回線及び光電話の契約先の変更による経費削減、学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、空調機の更新、及びデマンドコントローラーの更新及び電力使用量の監視、1・2号館照明器具のLED化を行い電気料金の削減を継続して行った。OHSUにおいては、令和4(2022)年度より経費削減及び環境問題を含むSDGs(Sustainable Development Goals)に積極的に取り組む観点から、掲示物のペーパーレス化を実施した。また、会議資料についても可能な限り、電子媒体での提供により経費削減に努めた。

4. 学園各号館の施設・設備改修計画について

各号館の建物附属設備・機器等について、改修及び入替について緊急性や費用を鑑み、年次で実行に移すための改修入替計画において、令和5(2023)年度は、1・2号館無線ネットワークの更新工事、1・2・5・6・3号館の消防設備の器具更新などを行った。

5. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSUにおいては、令和4(2022)年度 財団法人日本高等教育評価機構へのⅡ期目の認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。また、令和5(2023)年度に理学療法学専攻及び言語聴覚専攻科が(一社)リハビリテーション教育評価機構の認定審査を受審し、「適合」の認定を受けた。

OCT、OCRでは令和5(2023)年度においても、職業実践専門課程の認定(申請条件)の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果をOCT、OCRホームページ上に公開した。

また、令和3(2021)年度にOCRでは両学科とも(一社)リハビリテーション教育評価機構の認定審査を受審し、「適合」の認定を受けた。

6. 「教育の質の確保と向上」に向けた5カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みを行った。このため、引き続き令和5(2023)年度もOHSU、OCT、OCRにおいては、教育の質の確保と向上に対する5カ年計画(「中期展望および期間中の取組み」)を策定の上、目標設定等具体的に取り組み、3校とも「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、計画の項目に必ず盛り込むこととした。

7. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』において、OCRでは、令和5(2023)年度に理学療法学科(3年制)において再指定を受けることができた。

OCTでは、現行の類型『業務独占・名称独占』の再指定期間が、令和5(2023)年9月末を以って、終了することから、当該類型の指定要件でもある『2級建築士(受験率&合格率)』が外れる類型『職業実践専門課程』へと変更申請し、新規指定として認定を受けることができた。その結果、卒業後の2割追加給付条件の一つにもなっていた『2級建築士の資格取得』も不要となり、令和6(2024)年度以降の学生募集に向けて、大きなプラス要因となった。

8. ネット出願の導入について

OCTに於いては、平成28(2016)年度より「キャリア教育共済協同組合」のネット出願事業の先行的取組みをスタートさせ、これまで一定の成果も見られた。今後も引き続き、文科省が推進する『高大接続改革』にも対応したネット出願のシステム内容についても注視して行く必要がある。また、全出願者の『完全ネット出願』が事務DXにも繋がることから、その導入に向けた課題等の洗い出しを引き続き行った。

OHSU(学部・ST)およびOCRは、全ての入試をネット出願にて実施した。文科省の方針では、令和5年(2023)年度入試にむけて調査書の完全電子化を目指すとしており、今後eポートフォリオの普及等と相まって、高校生・社会人の隔てなくネットでの出願が加速すると見込まれる。

参考資料

★大阪工業技術専門学校

＜学科別学生数の状況＞

(令和6(2024)年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	在籍数	増減	総定員	充足率
I部建築学科	2年	46	74	120	-63	240	50.0%
建築設計学科	2年	23	22	45	-13	60	75.0%
大工技能学科	2年	26	21	47	-17	80	58.8%
インテリアデザイン学科	2年	24	32	56	-13	80	70.0%
ロボット・機械学科	2年	15	23	38	-16	80	47.5%
建築士専科	1年	32	—	32	+17	50	64.0%
I部小計		166	172	338	-105	590	57.3%
増減		-49	-56	-105			
II部建築学科	2年	56	47	103	-6	100	103.0%
II部小計		56	47	103	-6	100	103.0%
増減		+8	-14	-6			
合計		222	219	441	-111	690	63.9%
増減		-41	-70	-111			

※令和6年3月31日付けで学科廃止となりました『フレックス建築学科』の令和5年度に於ける在籍数(2学年5名)については、上記の表より削除しております。

★大阪リハビリテーション専門学校

＜学科別学生数の状況＞

(令和6(2024)年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学科	3年	33	31	31	—	95	120	79.2
作業療法学科	3年	23	23	29	—	75	120	62.5
合計		56	54	60	—	170	240	70.8

★大阪保健医療大学

<学科-専攻、専攻科別学生数の状況>

(令和6(2024)年5月1日現在)

専攻名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学専攻	4年	79	83	74	74	310	280	110.7
作業療法学専攻	4年	27	24	20	19	90	120	75.0
学部小計		106	107	94	93	400	400	100.0
保健医療学研究科	2年	2	1	—	—	3	12	25.0
言語聴覚専攻科	2年	20	24	—	—	44	80	55.0
合計		128	132	94	93	447	492	90.9